



発行
江戸川区立
瑞江第二中学校
校長 滝澤 清豪
発行日 3月23日
東京都江戸川区
瑞江4-54-1

第60回卒業式式辞 3月19日

うららかな春の光が、こ
こ瑞江の学び舎を包み込む
季節となりました。本日、
この佳き日に、江戸川区教
育委員森本勝也様をはじめ
多くのご来賓の皆様、保護
者の皆様のご臨席を賜り、
瑞江第二中学校「第60回卒
業式」を挙行できますこと
は、本校にとつてこの上の
ない喜びであります。ご多
用の中、卒業生の門出を祝
し、温かく見守ってくださ
る皆様に、心より厚く御礼
申し上げます。

さて、いま卒業証書を授
与した140名の卒業生の皆
さん、卒業おめでとうござ
います。3年前、期待と不
安を胸にこの校門をくぐっ
た皆さんは、学習に、行事
に、そして部活動にと、瑞
江第二中学校の新たな歴史
のページを刻んできました
。第60回という節目の卒
業生として、立派に成長し
た皆さんの姿を目の当たり
にし、私は今、大きな感動

と、皆さんを送り出せるこ
とへの誇らしさを感じてい
ます。

振り返れば、皆さんの歩
みは常に「挑戦」と共にあ
りました。入学した当初の
4月。本校では初めての試
みとして、1年生による
「宿泊学習」を実施しまし
た。当時はまだ学校生活に
も慣れない時期でしたが、
学年全員が一人も欠けるこ
となく参加しました。あの
時の、緊張混じりの表情の
中にキラリと光っていた皆
さんのやる気、そして友達
作りのプログラムの中で育
まれた団結力は、今でも鮮
明に記憶に残っています。

また、皆さんは瑞江二中
の特色である「プレゼンテ
ーション能力の育成」にも
見事に取り組んでくれました
。本校では、自分の考え
を言葉にし、他者に伝える
力を大切にしています。皆
さんは授業や行事、日々の
活動を通じて、自分の意見
を整理し、表現する難しさ
と喜びを学んできました。
当初は人前で話すことに躊

躇していた生徒も、3年間
の積み重ねを経て、今では
堂々と自分の意志を言葉に
乗せ、相手の心に届けるこ
とができるようになりまし
た。その成長した姿は、後
輩たちの素晴らしい手本で
す。論理的に考え、相手を
尊重しながら対話するその
力は、これからの社会を生
きていく上で、皆さんを助
ける一生の武器となるはず
です。

さて、新たな世界へと羽
ばたく皆さんに、私から一
つ、生涯大切にしていほしい
言葉を贈りたいと思います。
それは、

「今が一番若い」

という言葉です。この言
葉は、実は以前私の教え子
が、ある時、私に「自身が
大切にしている言葉」とし
て話してくれたものです。
私もこの言葉に感銘を受け、
皆さんに送る最後の言葉と
して送ります。皆さんは今
「これから何でもできる」
「未来は無敵だ」という希
望に満ち溢れている一方で、

「自分にはまだ早いのでは
ないか」「失敗したらどう
しよう」という不安を感じ
ることもあるでしょう。あ
るいは、もっと早く始めて
おけばよかった、あの時こ
うしていればよかったと、
過去を悔やむこともあるか
もしれません。

しかし、考えてみてくだ
さい。私たちの人生におい
て、昨日よりも今日、今日
よりも明日、私たちは確実
に年を重ねていきます。ど
んなに過去を振り返っても
どんなに未来を案じても
この瞬間のあなたより若い
あなたには、二度と会うこ
とできません。つまり、

「今、この瞬間こそが、
これからの人生の中で、あ
なたが最も若く、最も可能
性に満ち、何にでも挑戦で
きる最良の瞬間なのです。
「もう遅い」ということは
ありません。そして「まだ
早い」ということもありま
せん。何かを始めようと思
った時、自分を愛せたいと願
った時、その瞬間の皆さんが
人生で一番若いのです。そ
の若さは、失敗を恐れずに
一歩踏み出す勇氣を与えて
くれるはずです。

困難に直面したとき、こ
の言葉を思い出してください

い。「今が一番若いのだか
ら、今から始めればいい」
と。そう考えるだけで、心
に余裕が生まれ、前を向く
力が湧いてくるのではない
でしょうか。

そして、この言葉は皆さ
んだけに向けられたもので
はありません。私は、教育
の現場で長年、多くの生徒
たちを見守ってきました。
世間では「ベテラン」と呼
ばれる立場です。しかし、
そんな私にとつても、やは
り「今が一番若い」のです。
私は、卒業していく皆さん
と自分自身を、全く同じ立
場であると考えています。
私もまた、皆さんと同じよ
うに、この瞬間が人生で最
も若い自分であり、常に新
しいことに向き合い、学び
続けていかなければならな
い身です。ですから、私は
これからも、皆さんには負
けません。私自身も、自分
自身の可能性を信じ、努力
を続け、新しいことに挑戦
し続けていきます。皆さん
が新しいステージで頑張る
ように、私もまた、私自身
の場所で頑張ります。
私たちは、形こそ違えど、
共に未来を切り拓く挑戦者
なのです。

保護者の皆様、お子様の
ご卒業、誠におめでとうご

ざいます。この15年間、慈
しみ育ててこられたお子様
が、こうして立派に義務教
育を終えられた喜びは、ひ
ととおのこと拝察いたし
ます。反抗期や進路の悩み
など、葛藤の日々もあった
かと思いますが、今日この
場に立つお子様の背中には、
一回りも二回りも大きく見
えているのではないでしょ
うか。これまでの本校の教
育活動に対し、多大なるご
理解とご協力を賜りました
ことに、改めて深く感謝申
し上げます。

卒業生の皆さん、瑞江第
二中学校で学んだ自信と誇
りを胸に、堂々と胸を張っ
て歩んでください。皆さん
の前には、まだ見ぬ広い世
界が、皆さんの手によって
描かれるのを待っています。
第60回卒業生の皆さんの前
途が、光り輝くものである
ことを、そして皆さんが

「今が一番若い」

という言葉を胸に、自分ら
しく輝き続けることを心か
ら確信し、式辞といたしま
す。
令和八年三月十九日
江戸川区立瑞江第二中学校
校長 滝澤清豪

御礼

このたび、私は3月末を
もちまして退職すること
となりました。校長として8
年間、本校に勤務する中で、
保護者の皆様には、本校の
教育活動に対し、深いご理
解と温かいご支援を賜りま
したことに、心より厚く御礼
申し上げます。子どもたち
の健やかな成長を願い、学
校と家庭が信頼のもとに歩
みを重ねてこられましたこ
とは、私にとりまして大き
な支えであり、何にも代え
ない喜びでございました。
これまでのご厚情に深く
感謝申し上げますとともに、
本校のさらなる発展と、お
子様方のますますの成長、
ご家族の皆様のご健勝とご
多幸を心よりお祈り申し上
げます。在任中に賜りまし
たご厚情は、私にとつて生
涯忘れ得ぬ大切な財産で
ございます。深謝申し上げます。
校長 滝澤清豪

